

2025 年度 学校法人東京神学大学 事業計画書

1. 2025 年度事業計画方針

2025 年度は、第 3 次中期計画（2025 年度～2029 年度）の策定、第 2 次中期財政計画（2022～2026 年度）の 4 年目になる。最大の課題は、献身者の増員であり、更なる取り組みが必要となっている。

また、教会においては、信徒の高齢化、若人の減少により、本学の収入の約 6 割を占める後援会献金については影響が大きく、厳しい状況が続いている。

2025 年度予算編成に当たっての前提条件は中期財政計画を参考にしているが、収入は学生数の増員、経常費補助金の増額を目指し、支出は費用対効果を前提にしている。2025 年度も昨年同様にキャンパス整備事業の一旦中断を受け、経常会計は、通常の会計となる。

総学生数は、中期財政計画を見直し、2024 年度より 5 名多い **80 名** と想定し作成している。なお、大学院博士課程前期課程 聖書神学専攻は 2024 年度に収容定員変更（15 名を 10 名に変更）を行い、**収容定員 122 名**（学部 60 名、博士課程前期課程 50 名、博士課程後期課程 12 名）としている。

2025 年度の主な事業計画は以下の通りである。

(1) 献身者の増員（学生の受け入れ）

① 在学生総数 90 名台回復を目指すための、学生の受け入れのための具体的な方策

- i) アドミッションポリシーの検証と実質化を図る。
- ii) キリスト教学校との連携を強化する。
- iii) ホームページや SNS の活用による入試広報の充実を図る。
- iv) 広報委員会との連携の下、本学について広く周知する方策を検討する。
- v) 留学生の受け入れ方策および受け入れ態勢の充実を図る。
- vi) 教職課程についての広報を強化する。
- vii) 高校からの入学者の増加を目指し、方策を検討する。
- viii) 日本基督教団以外の福音主義的信仰に立つ教団・教派への広報活動を強化する。
- ix) 既に教役者として働いている者たちへの広報活動を強化する。
- x) 神学研修志望者の周知に努める。

② 各個教会との連携を密にし、学生募集につながる「日本伝道を担う青年の集い」「オープン・キャンパス」「入試説明会」等への参画を促す。地方にはオンライン参加も含め呼び掛けを積極的に実施する。

③ 東京神学大学同窓会、地区後援会及びキリスト教学校伝道協議会の支援を仰ぎ、既に実施されている公開講演会、理事・監事・評議員等からの呼び掛け、神学校日への学生の派遣等更なる活性化を図る。

④ 2023 年度から教文館において東神大フェアを開催し、好評を得ている。

2025 年度も継続して開催する。

(2) 後援会活動の維持・活性化

- ① 全国大会、地区後援会主催の公開講演会等を開催する。
- ② 東京神学大学ホームページは 2024 年度にリニューアルして、「学長室から」として学長から随時本学の情報を発信している。また、地区ごとの活動状況の情報共有を図る。
- ③ 各個教会に東京神学大学後援会窓口となる教会担当者を明確にしてもらうよう要請する。

(3) 内部質保証向上委員会課題

- ① 内部質保証体制を実質化し、毎年度 P D C A サイクルを通じて諸課題の改善を着実に進める。
- ② 内部質保証システムの有効性を毎年度検証し、検証結果を踏まえて、より適切なシステムへと改善する。
- ③ 自己点検評価にさまざまなステークホルダーの視点を取り入れるよう努める。
- ④ 教育活動の情報公開に努める。

(4) 学外事業の推進

- ① 公開夜間神学講座のオンライン配信の検討

(5) 東京神学大学ホームページ（情報公開）

- ① ホームページの更なる機能強化
- ② 広報活動の推進と情報の発信
- ③ 教育情報の公表として、2024 年度から大学院進学率、就職（赴任）率、留学率等のデータをグラフ等で公表した。2025 年度は更に G P A の活用、初年次教育等の実施及び公表を可能な限り検討する。

(6) 教育研究等環境整備

- ① 礼拝堂の空調設備設置の検討と文部科学省の私立学校等施設整備費補助金の獲得
- ② 本館排水管の取替更新の検討
- ③ 教育研究等環境整備（教室等の授業環境の整備）
- ④ IT 環境の充実・強化
- ⑤ 図書館リポジトリの充実に努める
- ⑥ 研究倫理規程・コンプライアンス基本方針等の内容の確認・検討を F D 活動の一環として、毎年度実施する。

(7) ガバナンスとコンプライアンスの強化

- ① 寄附行為変更認可申請 ➡ 2025 年 1 月 10 日付 認可
- ② 改正私立学校法に伴う体制整備のため、法人内の諸規程の制定、一部改正を 2024 年度 11 月の定期理事会、定期評議員会で審議し整備した。2025 年度も継続して規程に見直しを行う。
法人の諸規程の遵守と共に P D C A サイクルにより常に見直ししていく。

- 1) 学校法人東京神学大学内部統制システム整備の基本方針の制定
- 2) 東京神学大学危機管理規程の制定

- 3) 学校法人東京神学大学コンプライアンス基本方針の改正
- 4) 学校法人東京神学大学文書保存理規程の改正
- 5) 学校法人東京神学大学理事等選任機関運営規程の改正」
- ③ 改正私立学校法に伴う 2025 年度定期理事会等開催日程の実施
- ④ 第 2 次中期財政計画（2027 年度～2031 年度）の策定

2. 収入計画

- ① 学生生徒等納付金収入：学生数は、学部生 46 名（収容定員充足率 76.6%）、大学院生 34 名（博士課程前期課程 21 名、博士課程後期課程 13 名）、学生総数 80 名としている。入学者数は、学部編入学者 18 名、大学院 0 名、外部入学者合計 18 名、大学院の内部進学者 9 名として予算化した結果、49,090 千円としました。

- ② 寄付金収入：**一般寄付金**（教会賛助金、後援会個人献金等）は、156,500 千円としました。

特別寄付金（奨学金指定、建物施設指定、基金等）は、37,300 千円としました。

建物整備献金については、キャンパス整備計画が終了したことにより、献金額が減少しているため、過年度実績を基に 4,000 千円としました。

その結果、一般寄付金と特別寄付金の総額は 193,800 千円としました。

- ③ 補助金収入：補助金対象教員は専任教員 13 名、専任職員 10 名、38,000 千円としました。

教育の質の客観的指標の配点は、2024 年度は 2023 年度より 10 点増加した。2025 年度はさらに工夫して配点を高める。

- ④ 資産運用収入：資産運用は、2024 年度予算同様に 24,820 千円としました。

3. 支出計画

- ① 人件費支出：専任教育職員（含む特任教授・特任准教授・特任常勤講師・助教）14 名、専任事務職員 12 名、図書館パート職員 1 名、定年退職者 職員 1 名により 235,192 千円としました。

- ② 教育研究用経費・管理経費

本館 2 階ホール、西側廊下の照明器具の LED 化 1,800 千円、樹木伐採等年間管理料他、その他、情報関連（パソコン他）経費、全国地区後援会旅費、学報、学校案内作成費、教職課程のしおり、教務システム保守費及び**教務課システムリプレイス消耗品費**他

- ③ 図書関係

教育消耗品費：和雑誌 250 千円、洋雑誌 7,700 千円、

電子ジャーナル 1,200 千円、システム運用サポート費 1,080 千円

図書館システムリプレイス：消耗品費 1,550 千円他に設備関係支出

総額 20,900 千円（5 年リース）

学生アルバイト料 2,000 千円

- ④ 奨学金：2024 年度予算同様 18,000 千円

各教会に奨学金献金の増額を依頼するため神学生の生活状況を具現化する。

- ⑤ ・ 礼拝堂の空調設備を実現化するために、空調機能の効率化を基本に見積もりを依頼している。本体費用は、文部科学省の「施設設備補助金」に申請する。
- ・ 本館 1 階排水管取替更新の見積もりを依頼している。

設備関係支出	37,520 千円
教育研究用機器備品	11,220 千円
・ 本館サーバ室、学生課事務室ファイアウォール	2,750 千円
・ 図書館システムリプレイス（5 年リース）	4,420 千円
・ 教務課システムリプレイス	
教務課 教務システム用サーバー	2,270 千円
教務課 NASHDD(8TB)	480 千円
教務課・学生課 職員用 PC（4 台）	1,300 千円
計	4,050 千円
ソフトウェア	14,500 千円
・ 図書館システムリプレイス（5 年リース）	
図 書	11,800 千円
和書 1,200 千円、洋書（電子書籍含む）10,600 千円	

以 上